

2019年5月29日

29th May, 2019

大学院学生各位

To All Graduate Students

2019年度 基盤医学特論 開講通知 Information on Special Lecture Tokuron & Tokupro AY2019

特徴あるプログラム オミクス解析学プログラム

Omics Analysis Program

題目：がんによる個体生理変容のメカニズムをオミクス解析によって紐解く

Title : Omics analysis on the mechanisms underlying cancer's adverse effects on the host

講師：河岡 慎平 先生

(京都大学 ウイルス・再生医科学研究所 特定准教授)

Teaching Staff : Dr. Shinpei KAWAOKA

(Associate Professor,
Institute for Frontier Life and Medical Sciences, Kyoto University)



日時：2019年6月20日（木）17:00～18:30

Time and Date : 20th Jun, 2019 17:00-18:30

場所：基礎研究棟 第2講義室

Room : Basic Medical Research Building Lecture room No.2

概説：

がんは、サイトカインやホルモンの分泌を介して個体生理を変容させる。具体例として、脂肪や筋肉、体重の減少を伴う全身性の代謝障害であるがん悪液質を挙げることができる。これらの悪影響のしくみを理解し、その制御法を確立することは、患者のQOLや生命予後、標準治療の継続性や感受性を改善させることに繋がる。

一方で、がんによる個体生理の変容を強力に緩和できるような方法は、現時点では存在しない。がん由来のサイトカインを標的としたコントロールが試みられたこともあるが、効果は限定的であった。演者は、この状況を打開するためには、がんによる個体生理変容のメカニズムを宿主側の立場から正確に理解する必要があると考えている。

がんによる個体生理変容のメカニズムは、がんと多数の宿主臓器が互いに関係しあう、明らかに複雑なものである。この複雑な問題を解決するには、どのような研究が必要だろうか。演者は、担がん動物モデル、オミクス解析、遺伝学を組み合わせることで、この問題を解決しようとしている。講義では、がんによる個体生理変容の解明にあたって、オミクス解析をどのように用いるか、その強み、そしてボトルネックは何かということ、具体例を交えながら概説したい。

使用言語：日本語

Language : Japanese

関係講座・部門等の連絡担当者:神経遺伝情報学・大野欽司、システム生物学・島村 徹平 (内線 1980)

Contact : Division of Neurogenetics・Kinji Ohno, Division of Systems Biology・Teppei Shimamura (ext. 1980)

事前連絡は不要です。

No registration required.